

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871400200
法人名	医療法人 竹林院
事業所名	グループホーム かぐや姫
所在地	愛媛県西予市野村町野村11-95-1
自己評価作成日	平成21年10月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年11月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・併設のデイサービスの利用が自由に出来る。</li> <li>・併設に病院があり、希望に応じた受診、物療、リハビリの対応が早い。</li> <li>・栄養士が献立を立てており、栄養のバランスがとれている。</li> <li>・月1回、音楽療法を実施。</li> <li>・月2回、同じ法人のGHとの交流会を実施。</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは開設から5年余りを経過し、この間特に人材の育成に力を入れている。人材育成、マンネリ化防止、サービスの質の向上等を目的として、法人の運営する医療機関及び3事業所でそれぞれに年間テーマを設定してTQC(質の向上のための取り組み)を実践し、年1回合同で成果発表会を開催している。毎月1回は法人内の合同勉強会を実施し、また年3回までは必要経費を法人負担で外部研修に参加できる体制となっている。地域密着型サービスをどう実践につなげていくか、ということを現在課題として取り組んでいる。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 かぐや姫

(ユニット名) 1F

記入者(管理者)  
氏名 小玉弘美

評価完了日 21 年 11 月 17 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 地域との連携を密にしたかぐや姫独自の理念もあり、又、各階の理念もある。勉強会や毎朝の申し送り等で理念にふれ、意見の統一を図りながら実践につなげている。</p> <p>(外部評価) ホームの運営理念のほか、各ユニット毎に全職員で検討した介護理念もある。理念は、「利用者を大切にす」という気持ちを職員間で共有するための意識付けになっていると職員は感じている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	<p>(自己評価) 近隣の幼・小・中学生との交流の機会がある。地域の奉仕活動に参加している。納涼祭には地域の人に声を掛け、参加してもらっている。</p> <p>(外部評価) 管理者は、常に地域との交流をより密にしたいと考えており、理念にも表現されている。地域の奉仕活動に参加することはもちろん、近所の保育園児との交流や、小・中学校の体験学習や実習生の受け入れ等もしている。壁に貼られた子どもたちの感想文には「楽しかった」「いっぱい笑いました」とあり、利用者との交流の様子がうかがえる。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の方から、認知症の相談を受けている。人材育成のために、実習生の受け入れを行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) ホームの取り組み内容や具体的な課題を話し、多くの意見を取り入れながら、今後の取り組みに反映している。	
			(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回開催し、ホームの現状報告を中心に、運営に関する情報交換等を行っている。委員からの提案によりボランティアを受け入れることができた他、近隣の住民から認知症や介護についての相談を寄せられるようになっている。	運営者、管理者だけでなく職員も、ホームがもっと地域と密着していきたく強く願っているため、身近な隣人を含め、より多彩な構成メンバーの参加を得て会議の充実を図る等の工夫を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 地域包括支援センター、市役所の保健福祉課との情報交換は行っている。今後も、共同関係ができるように担当者と会う機会を増やしていきたい。	
			(外部評価) 運営推進会議には必ず市担当者の出席があり、会議を通して行政との意思疎通を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 毎日の申し送りや勉強会において身体拘束に関する理解と認識を図っている。身体拘束は行っていない。昼間は施錠してないが、夜間は一人での対応となるので、やむおえず施錠しなければいけない必要に迫られる時がある。	
			(外部評価) 身体拘束の範囲や虐待防止法については、開設以来3年間、内部勉強会のテーマに取り上げている。退職する職員も少ないため、職員間でも共有できている。日々のケアにおいて職員の言葉遣い等が気になる時は、職員自らが気づけるよう、その都度注意を促している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 順次、研修会に参加し勉強している。日々の利用者の声、表情、身体状態などに注意を払っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 順次、研修会に参加し勉強している。現在は、制度を必要とする人はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分な説明を行い、理解、納得の上、入居されている。契約内容はわかりやすい表現に心掛けている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 何でも言ってもらえるような雰囲気づくりを心掛けている。出された意見はすぐに話しあいを持ち、反映させている。  (外部評価) 行事の場を特に大切な情報を得るチャンスと考え、併設の居宅介護支援事業所の職員を中心に情報を収集し、得た情報を記録に残している。日常的に、利用者や家族の言動・表情等から思いを感じとろうと努力し、少しでも違和感を感じればその理由を確認して記録し、月1回開催する勉強会で全職員で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) コミュニケーションを図るように努め、要望や意見を聞くように心掛けている。年1回の面談を実施し、職員の意見を聞く場を設けている。  (外部評価) 管理者は、年1回は必ず職員一人ひとりの意見を聞く機会を設けている。職員は、仲間同士のコミュニケーションもとれており、特にストレスを持ち越すことはないと話している。管理者も、法人代表や事務長との意思疎通は十分図ることができている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 資格給をつける、手当UP（通勤、夜勤）、精勤手当、昇給とあり、就業環境を考えてもらっている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 施設外研修に参加している。できるだけ多くの職員が受講できるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 県、南予地区、市グループホームに連絡会があり、情報交換をしながら質の向上に取り組んでいる。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者の生活のリズム、生活習慣をよく把握し、何を必要としているかを知ろうとしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 面接時に状況を把握し、家族が何を望んでいるか、家族の気持ちになって受けとめようと努力している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時、本人や家族の思い、状況を把握し、改善に向けた支援に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者に教えてもらう場面を多くもち、声掛けに配慮している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時、生活の様子を話し合う機会を持ち、一緒になって利用者を支えていく為に、同じ思いで支援していることを伝えている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) スーパー、美容室、友人宅、お墓参りなど、継続した支援を行っている。  (外部評価) 玄関は居宅介護支援事業所及びデイサービスと共用で、交流は自由にできる。デイサービス利用から入居につながった利用者もあり、家族や友人の訪問は多い。1階ユニットは今年度の研究テーマを「昔なつかしい場所で友人に会い、景色を見て昔を思い出すことで利用者の心情を察する」とし、関係継続支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員が間に入りながら、上手く関係が築けるようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 長期入院の場合は続けて様子伺いに行っている。他の施設に行かれた方は、時々、顔を見に行っている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の希望や要望を受け入れた対応をしているが、困難な場合は家族にも協力をお願いしている。	
			(外部評価) センター方式の書式を活用し、利用者一人ひとりについての気付きを記録している。特に注意を要する状態にある利用者の記録はさらに丁寧なものとなり、職員間で情報を共有してケアにあたっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の面接時、家族、本人から聞き把握している。又、面会者の話や日常会話の中で、これまでの暮らしをすることが出来る。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個人の正確、習慣を把握し、出来ること、分かる力を生活の中で見つけていく事に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ケアマネ、担当者、各階のリーダーが主になって、本人、家族の思いや意見を聞いて、反映させるようにしている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの担当職員が中心となり、本人及び家族の意向を確認して、管理者及びユニットリーダーと共に介護計画を作成している。介護計画は利用者本人にも説明し、了解を得る仕組みができています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別に記録している。利用者の生活の様子が分かるように記録されている。記録を基に介護計画の見直しに生かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 併設デイサービスの利用、併設されている病院への受診、物療、リハビリなど、その時の要望に応じて対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 公民館、図書館などの施設を利用する事はある。月1回、音楽療法のボランティアに来てもらっている。年に数回、幼、小、中学校との交流会がある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人、家族の思いや意見を聞いて医療を受けている。 必要時には、訪問診察に来てもらっている。	
			(外部評価) 入居時に本人及び家族とも相談し、本人が適切な医療 を受けられるよう支援している。内科の個人病院や近 くの総合病院をかかりつけ医としてそのまま継続する 利用者もいるが、ホームと同敷地内にある協力医療機 関に変更を希望する方が多い。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護職がない為、併設病院の看護師との連携がとれる 体制が確保されている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には毎日様子伺いに行き、病院側と情報交換を しながら退院支援に結びつけている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 今の所、重度者や終末期の方をサービス対象者とはし ていない。利用者、家族が安心してサービス利用が 出来るように、日頃の健康管理や急変時の対応が出来る ように話し合っている。	
			(外部評価) 看取りに関する指針があり、本人及び家族に説明して いるが、現在までに看取りの経験はない。今後は本人 及び家族の要望も高まると考えられるため、管理者は 対応の準備をすすめる必要性を感じている。	同敷地内にある協力医療機関から看護師の応援が常に 得られるため、安心感はあるが、介護職員に必要な医 学的知識等、学習の必要性を職員は感じている。職員 の不安を解消し、利用者や家族に安心してもらえるた めにも更なる取り組みを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に消防署による救急法の研修を実施している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力を得て、年2回の避難訓練を行っている。  (外部評価) 年2回、2階の利用者も含め全員での避難訓練を実施している。災害時緊急連絡網も作成しているが、関係職員のみ構成になっている。	緊急連絡網に運営推進会議のメンバーや隣近所の方等にも加わってもらい、緊急時の実践的な対応を図れるようにする等、更なる取り組みを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 勉強会や申し送り時に、利用者への関わりかた、声の掛け方など、配慮した対応が出来るようにしている。  (外部評価) 利用者一人ひとりの尊厳を守るという姿勢を、毎日の申し送り時や勉強会等で話し合い、共有している。職員は、「待つ支援・待つ介護」を心がけ、利用者一人ひとりの力を活かした必要最小限の支援に徹している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 一人一人にあった声掛けをし、利用者が自分で決める場面を作っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 買い物、散歩、趣味の時間など、一人一人の思いに配慮しながら柔軟な対応をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) これまでのいきつけの理、美容院に行かれている。個性を尊重した、身だしなみが出来ようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 敷地内の畑で採れた旬な野菜を入居者と共に収穫し、食材にしている。盛りつけにも色取りを工夫されている。  (外部評価) 食事に関する一連の作業に参加できる利用者は少なくなったが、食材の下ごしらえや食後の片づけ等、できる人ができることをしている。2階ユニットは「利用者の記憶をもとに昔懐かしい料理やお菓子を一緒に作り、味わう」を今年度の研究テーマとして取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士に献立を作成してもらっている。食事摂取量は記録している。キザミ食にするなど、摂取状態に合わせて対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後声掛け対応を行い、能力に応じて職員が行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄記録をつけ、個々の状態を把握し、トイレ誘導を行っている。	
			(外部評価) 利用者の排泄支援の基本を、日中はトイレ誘導、夜間は室内のポータブルトイレ活用としており、失敗による羞恥心等の解消に努めている。排泄記録表には、時間・場所・排泄の状況等の記録が丁寧になされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食材を工夫したり、運動を働きかけたり、水分を多く飲用してもらうようにしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 希望があれば、曜日、時間を変更した対応をしている。	
			(外部評価) 全利用者が入浴を好み、週3回の入浴を基本として支援しているが、中には毎日入浴を楽しんでいる方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 温かい飲み物を準備したり、寝つけない時には添い寝をしたり、話につき合う等している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋のコピーを管理し、職員が内容を把握できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個人の出来ること、楽しみなど、能力を發揮できるような場面づくりや、何か役割のある生活が送れるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 勤務状態や内容により、希望にそえない事もあるが、出来るだけ希望に応じた対応をしている。手作り弁当やおやつを持って外出する事もある。又外食する機会もある。	
			(外部評価) ホームはコンビニ、菓子店、薬局、小学校、高齢者施設、総合病院等にも近く、日常的な外出に便利である。家族、友人等の訪問も多く、個別の外出も多い。好きな店で欲しい物を買う、行きつけの美容院に行く等、生活の継続として外出を捉えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 能力に応じて管理してもらっている。買い物の際は本人にお金を持たせ、出来ない部分を支払っている。本人、家族の希望があれば、ホームで預かっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望に応じて手紙や電話をしたり出来るように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使いやすい配置にしたり、花を飾ったり、壁面を工夫し、生活感、季節感のある物を上手く活用している。	
			(外部評価) 日中、利用者全員が居間及び食堂のお気に入りの場所で寛いでいる。畳スペースやソファの配置等を工夫し、不要な飾りつけやざわざわした雰囲気もなく、ゆったりと過ごせる共用空間となっている。共用空間の雰囲気等について、家族や友人が訪問した際に感想や気付きを聞き取るよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 廊下、ホールにはテーブルや椅子や畳のスペースもあり、利用者同士がくつろげるような居場所や環境づくりをしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者の馴染みの物や好みの物を生活の中に持ち込まれている。	
			(外部評価) 各居室にベッドとクローゼットは設置されているが、その配置は自由である。馴染みの家具の持ち込みもあり、それぞれ個性的で居心地良く生活できるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 一人一人の能力を見極め、状態変化に合わせて手すりをつけたり、福祉用具を利用して少しでも自立した生活が送れるように支援している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871400200
法人名	医療法人 竹林院
事業所名	グループホーム かぐや姫
所在地	愛媛県西予市野村町野村11-95-1
自己評価作成日	平成21年10月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年11月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・併設のデイサービスの利用が自由に出来る。</li> <li>・併設に病院があり、希望に応じた受診、物療、リハビリの対応が早い。</li> <li>・栄養士が献立を立てており、栄養のバランスがとれている。</li> <li>・月1回、音楽療法を実施。</li> <li>・月2回、同じ法人のGHとの交流会を実施。</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは開設から5年余りを経過し、この間特に人材の育成に力を入れている。人材育成、マンネリ化防止、サービスの質の向上等を目的として、法人の運営する医療機関及び3事業所でそれぞれに年間テーマを設定してTQC(質の向上のための取り組み)を実践し、年1回合同で成果発表会を開催している。毎月1回は法人内の合同勉強会を実施し、また年3回までは必要経費を法人負担で外部研修に参加できる体制となっている。地域密着型サービスをどう実践につなげていくか、ということを現在課題として取り組んでいる。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	かぐや姫
(ユニット名)	2F
記入者(管理者)	
氏名	小玉弘美
評価完了日	21 年 11 月 17 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 地域との連携を密にしたかぐや姫独自の理念もあり、又、各階の理念もある。勉強会や毎朝の申し送り等で理念にふれ、意見の統一を図りながら実践につなげている。</p> <p>(外部評価) ホームの運営理念のほか、各ユニット毎に全職員で検討した介護理念もある。理念は、「利用者を大切にす</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 近隣の幼・小・中学生との交流の機会がある。地域の奉仕活動に参加している。納涼祭には地域の人に声を掛け、参加してもらっている。</p> <p>(外部評価) 管理者は、常に地域との交流をより密にしたいと考えており、理念にも表現されている。地域の奉仕活動に参加することはもちろん、近所の保育園児との交流や、小・中学校の体験学習や実習生の受け入れ等もしている。壁に貼られた子どもたちの感想文には「楽しかった」「いっぱい笑いました」とあり、利用者との交流の様子がうかがえる。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の方から、認知症の相談を受けている。人材育成のために、実習生の受け入れを行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) ホームの取り組み内容や具体的な課題を話し、多くの 意見を取り入れながら、今後の取り組みに反映してい る。	
			(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回開催し、ホームの現状報 告を中心に、運営に関する情報交換等を行っている。 委員からの提案によりボランティアを受け入れること ができた他、近隣の住民から認知症や介護についての 相談を寄せられるようになっている。	運営者、管理者だけでなく職員も、ホームがもっと地 域と密着していきたく強く願っているため、身近な 隣人を含め、より多彩な構成メンバーの参加を得て会 議の充実を図る等の工夫を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 地域包括支援センター、市役所の保健福祉課との情報 交換は行っている。今後も、共同関係ができるように 担当者と会う機会を増やしていきたい。	
			(外部評価) 運営推進会議には必ず市担当者の出席があり、会議を 通しても行政との意思疎通を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正しく 理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 毎日の申し送りや勉強会において身体拘束に関する理 解と認識を図っている。身体拘束は行っていない。昼 間は施錠してないが、夜間は一人での対応となるの で、やむおえず施錠しなければいけない必要に迫られ る時がある。	
			(外部評価) 身体拘束の範囲や虐待防止法については、開設以来3 年間、内部勉強会のテーマに取り上げている。退職す る職員も少ないため、職員間でも共有できている。 日々のケアにおいて職員の言葉遣い等が気になる時 は、職員自らが気づけるよう、その都度注意を促して いる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 順次、研修会に参加し勉強している。日々の利用者の声、表情、身体状態などに注意を払っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 順次、研修会に参加し勉強している。現在は、制度を必要とする人はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分な説明を行い、理解、納得の上、入居されている。契約内容はわかりやすい表現に心掛けている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 何でも言ってもらえるような雰囲気づくりを心掛けている。出された意見はすぐに話しあいを持ち、反映させている。  (外部評価) 行事の場を特に大切な情報を得るチャンスと考え、併設の居宅介護支援事業所の職員を中心に情報を収集し、得た情報を記録に残している。日常的に、利用者や家族の言動・表情等から思いを感じとろうと努力し、少しでも違和感を感じればその理由を確認して記録し、月1回開催する勉強会で全職員で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) コミュニケーションを図るように努め、要望や意見を聞くように心掛けている。年1回の面談を実施し、職員の意見を聞く場を設けている。</p> <p>(外部評価) 管理者は、年1回は必ず職員一人ひとりの意見を聞く機会を設けている。職員は、仲間同士のコミュニケーションもとれており、特にストレスを持ち越すことはないと話している。管理者も、法人代表や事務長との意思疎通は十分図ることができている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 資格給をつける、手当UP（通勤、夜勤）、精勤手当、昇給とあり、就業環境を考えてもらっている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 施設外研修に参加している。できるだけ多くの職員が受講できるようにしている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 県、南予地区、市グループホームに連絡会があり、情報交換をしながら質の向上に取り組んでいる。</p>	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 利用者の生活のリズム、生活習慣をよく把握し、何を必要としているかを知ろうとしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 面接時に状況を把握し、家族が何を望んでいるか、家族の気持ちになって受けとめようと努力している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時、本人や家族の思い、状況を把握し、改善に向けた支援に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者に教えてもらう場面を多くもち、声掛けに配慮している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時、生活の様子を話し合う機会を持ち、一緒になって利用者を支えていく為に、同じ思いで支援していることを伝えている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) スーパー、美容室、友人宅、お墓参りなど、継続した支援を行っている。  (外部評価) 玄関は居宅介護支援事業所及びデイサービスと共用で、交流は自由にできる。デイサービス利用から入居につながった利用者もあり、家族や友人の訪問は多い。1階ユニットは今年度の研究テーマを「昔なつかしい場所で友人に会い、景色を見て昔を思い出すことで利用者の心情を察する」とし、関係継続支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員が間に入りながら、上手く関係が築けるようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 長期入院の場合は続けて様子伺いに行っている。他の施設に行かれた方は、時々、顔を見に行っている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の希望や要望を受け入れた対応をしているが、困難な場合は家族にも協力をお願いしている。  (外部評価) センター方式の書式を活用し、利用者一人ひとりについての気付きを記録している。特に注意を要する状態にある利用者の記録はさらに丁寧なものとなり、職員間で情報を共有してケアにあたっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の面接時、家族、本人から聞き把握している。又、面会者の話や日常会話の中で、これまでの暮らしをすることが出来る。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個人の正確、習慣を把握し、出来ること、分かる力を生活の中で見つけていく事に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ケアマネ、担当者、各階のリーダーが主になって、本人、家族の思いや意見を聞いて、反映させるようにしている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの担当職員が中心となり、本人及び家族の意向を確認して、管理者及びユニットリーダーと共に介護計画を作成している。介護計画は利用者本人にも説明し、了解を得る仕組みができています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別に記録している。利用者の生活の様子が分かるように記録されている。記録を基に介護計画の見直しに生かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 併設デイサービスの利用、併設されている病院への受診、物療、リハビリなど、その時の要望に応じて対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 公民館、図書館などの施設を利用する事はある。月1回、音楽療法のボランティアに来てもらっている。年に数回、幼、小、中学校との交流会がある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人、家族の思いや意見を聞いて医療を受けている。 必要時には、訪問診察に来てもらっている。	
			(外部評価) 入居時に本人及び家族とも相談し、本人が適切な医療 を受けられるよう支援している。内科の個人病院や近 くの総合病院をかかりつけ医としてそのまま継続する 利用者もいるが、ホームと同敷地内にある協力医療機 関に変更を希望する方が多い。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護職がない為、併設病院の看護師との連携がとれ る体制が確保されている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には毎日様子伺いに行き、病院側と情報交換を しながら退院支援に結びつけている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 今の所、重度者や終末期の方をサービス対象者とはし ていない。利用者、家族が安心してサービス利用が 出来るように、日頃の健康管理や急変時の対応が出来る ように話し合っている。	
			(外部評価) 看取りに関する指針があり、本人及び家族に説明して いるが、現在までに看取りの経験はない。今後は本人 及び家族の要望も高まると考えられるため、管理者は 対応の準備をすすめる必要性を感じている。	同敷地内にある協力医療機関から看護師の応援が常 に得られるため、安心感はあるが、介護職員に必要な医 学的知識等、学習の必要性を職員は感じている。職員 の不安を解消し、利用者や家族に安心してもらえるた めにも更なる取り組みを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に消防署による救急法の研修を実施している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力を得て、年2回の避難訓練を行っている。  (外部評価) 年2回、2階の利用者も含め全員での避難訓練を実施している。災害時緊急連絡網も作成しているが、関係職員のみ構成になっている。	緊急連絡網に運営推進会議のメンバーや隣近所の方等にも加わってもらい、緊急時の実践的な対応を図れるようにする等、更なる取り組みを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 勉強会や申し送り時に、利用者への関わりかた、声の掛け方など、配慮した対応が出来るようにしている。  (外部評価) 利用者一人ひとりの尊厳を守るという姿勢を、毎日の申し送り時や勉強会等で話し合い、共有している。職員は、「待つ支援・待つ介護」を心がけ、利用者一人ひとりの力を活かした必要最小限の支援に徹している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 一人一人にあった声掛けをし、利用者が自分で決める場面を作っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 買い物、散歩、趣味の時間など、一人一人の思いに配慮しながら柔軟な対応をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) これまでのいきつけの理、美容院に行かれている。個性を尊重した、身だしなみが出来ようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 敷地内の畑で採れた旬な野菜を入居者と共に収穫し、食材にしている。盛りつけにも色取りを工夫されている。	
			(外部評価) 食事に関する一連の作業に参加できる利用者は少なくなったが、食材の下ごしらえや食後の片づけ等、できる人ができることをしている。2階ユニットは「利用者の記憶をもとに昔懐かしい料理やお菓子を一緒につくり、味わう」を今年度の研究テーマとして取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士に献立を作成してもらっている。食事摂取量は記録している。キザミ食にするなど、摂取状態に合わせて対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後声掛け対応を行い、能力に応じて職員が行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄記録をつけ、個々の状態を把握し、トイレ誘導を行っている。	
			(外部評価) 利用者の排泄支援の基本を、日中はトイレ誘導、夜間は室内のポータブルトイレ活用としており、失敗による羞恥心等の解消に努めている。排泄記録表には、時間・場所・排泄の状況等の記録が丁寧になされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食材を工夫したり、運動を働きかけたり、水分を多く飲用してもらうようにしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 希望があれば、曜日、時間を変更した対応をしている。	
			(外部評価) 全利用者が入浴を好み、週3回の入浴を基本として支援しているが、中には毎日入浴を楽しんでいる方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 温かい飲み物を準備したり、寝つけない時には添い寝をしたり、話につき合う等している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋のコピーを管理し、職員が内容を把握できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個人の出来ること、楽しみなど、能力を發揮できるような場面づくりや、何か役割のある生活が送れるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 勤務状態や内容により、希望にそえない事もあるが、出来るだけ希望に応じた対応をしている。手作り弁当やおやつを持って外出する事もある。又外食する機会もある。	
			(外部評価) ホームはコンビニ、菓子店、薬局、小学校、高齢者施設、総合病院等にも近く、日常的な外出に便利である。家族、友人等の訪問も多く、個別の外出も多い。好きな店で欲しい物を買う、行きつけの美容院に行く等、生活の継続として外出を捉えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 能力に応じて管理してもらっている。買い物の際は本人にお金を持たせ、出来ない部分を支払っている。本人、家族の希望があれば、ホームで預かっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望に応じて手紙や電話をしたり出来るように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使いやすい配置にしたり、花を飾ったり、壁面を工夫し、生活感、季節感のある物を上手く活用している。	
			(外部評価) 日中、利用者全員が居間及び食堂のお気に入りの場所で寛いでいる。畳スペースやソファの配置等を工夫し、不要な飾りつけやざわざわした雰囲気もなく、ゆったりと過ごせる共用空間となっている。共用空間の雰囲気等について、家族や友人が訪問した際に感想や気付きを聞き取るよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 廊下、ホールにはテーブルや椅子や畳のスペースもあり、利用者同士がくつろげるような居場所や環境づくりをしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者の馴染みの物や好みの物を生活の中に持ち込まれている。	
			(外部評価) 各居室にベッドとクローゼットは設置されているが、その配置は自由である。馴染みの家具の持ち込みもあり、それぞれ個性的で居心地良く生活できるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 一人一人の能力を見極め、状態変化に合わせて手すりをつけたり、福祉用具を利用して少しでも自立した生活が送れるように支援している。	